Masuko Memorial Hospital
Masuko Clinic Subaru
ますこ新聞
透析スマイル
2015年　第3号

アクセス(シャント)管理について

糖尿病・内分泌内科の佐藤です。糖尿病・内分泌疾患の外来とその傍ら透析アクセス(シャント)の当番を週2回担当しています。

それ以外にも、適宜手術やカテーテルの対応をし、当グループの600名以上の血液透析患者さんのアクセストラブルに全力で取り組んでいます。特に名古屋第二赤十字病院での経験を生かして人工血管の閉塞に関しては、経カテーテルでの血栓除去及びその後の血管形成術(PTA)を血管撮影室で行うこともしています。

これによって手術の侵襲を軽減でき、患者さんにとっても負担のない治療に心がけています。また、早期の対応をスタッフにも教育、推進してアクセストラブルに対する余裕をもった計画を立てることを徐々に浸透させ、より安心で安定した血液透析を提供できるように邁進します。

また、透析日にアクセスが閉塞して透析できないという時にも、対処までの時間が空く場合、透析可能な血管を探して透析を1セッション施行してからカテーテルもしくは手術に臨めるようにしています。このようにして透析スケジュールを可能な限り滞りなく行えるように頑張っています。

これからもよろしくお願いします。

本号より新コーナーが始まります。
その名も「透析と共に生きる」です。
当院で透析中のある患者様が好意で素晴らしいコラムをご寄稿してくださいました。「透析者」が日ごろ透析についてどのように感じ、どのように考えて透析治療を受けているのか伝わる内容です。また、その方は写真を撮ることが趣味でコラムと一緒にたくさんの作品もご提供頂きました。
そちらも一緒に掲載していきますので楽しんで頂けたら幸いに思います。

バスキュラーアクセス（＝シャント）用の超音波診断装置を導入しました。

近年、超音波診断装置を用いてのバスキュラーアクセス（以下、ＶＡ）管理の有用性が多々報告されています。

〇従来のVA管理

従来のVA管理は、スタッフによる視診・聴診・触診と透析治療中に得られる静脈圧などの情報を用いてPTAや手術の適応を判断してきました。

しかし、視診・聴診・触診は主観的な側面が多く、また深い血管など触診が困難なVAでは十分な情報が得られないことが少なくありません。

〇超音波検査とは？

超音波を対象物に当ててその反響を映像化する画像検査法。（ウィキペディアより引用）

従来のVA管理に加え、超音波診断装置を用いることでより客観的で正確な情報が得られるようになります。

〇超音波診断装置を用いたVA管理とは？

・形態的評価：血管の走行や狭窄などを画像から評価

・機能的評価：VAに流れる血液の流量を評価

当院でも、これからどんどん活用していきますのでよろしくお願い致します。

透析と共に生きる

本原稿は、具体的に何か依頼があった訳ではありません。最近思うままに綴ってみました。

透析を考える

維持透析をしていらっしゃる皆様、毎回お疲れ様です。これからも体調管理に励まれ、健やかな、日々を送られるよう共にがんばりましょう。

振り返れば私も早、導入から１３年目を迎えます。新人とばかり思っていましたが、もう中堅と呼んでもいい年数になりました。

改めて導入の頃を思い返しますと、私は往生際が悪く、けっこうジタバタして回りの方々に迷惑を掛けてしまいました。

これまでの人生で築いてきたものが崩れ落ち、お先真っ暗だろう透析治療の日々に、恐怖さえも抱いていたのです。

時は無情に過ぎ、導入の日をいやおうなしに迎えました。しかし、そこには想像しなかった新たな人生が備えられていました。

それは透析と共に生きるという人生でした。そして、こんな私を暖かく迎え支えてくださった医師やスタッフの方々に感謝しています。

私は新たな人生を踏み出すことができたのです。

さて、ここで透析という私にとって、不思議な治療について考えてみたいと思います。

（次号へつづく）